

# World Tourism Update

Bimonthly Newsletter of Tourism Education & Research

WTU No.3 / 2013.10

## UNWTO, WTTC —2 機関を中心とした観光教育、研究に関わる世界の情報—

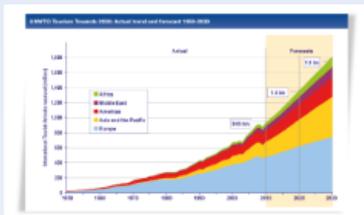
### WTTC: travellers are not a soft target for taxation



WTTC の Scowhill は「観光産業における過剰な課税制度は世界にはびこっている。政府は観光客を都合のいい税収財源とみなすべきではない。」と声明する。多くの国々では、観光客に対し、航空・空港税に加え追加的にホテル・飲食、そして文化にさえ税金を課す国々がある。これについて、同氏は「観光客を収入源そのものではなく、税収増加を誘発する存在と認識する必要がある。税金は観光発展を妨げるものであってはならず、促進するものとして効果的に働くべきだ。」と述べる。これまで、WTTC は適切なインフラ設備への投資、企業間競争を通じた官民協働による産業の発展を先導してきた。しかし、観光産業の税負担軽減に向けた課題はまだ山積みであり、今後も政府に対する積極的な働きかけを続けていく必要があるとしている。

<http://www.wttc.org/news-media/news-archive/2013/wttc-travellers-are-not-soft-target-taxation/>

### International tourism demands exceeds expectations in the first half of 2013



UNWTO が発表したデータによると、2013 年上半期の国際観光客数は前年度の同時期に比べて 5% 増加し、およそ 5 億人となった。この増加は、年初の大幅な伸びを反映したもので、UNWTO の長期予測を上回る数字だという（“the UNWTO long-term outlook Tourism Towards 2030”では年間 3.8%の成長が予測されている）。地域別に見ると、東南アジア（+12%）、中央・東ヨーロッパ（+10%）などを筆頭に、各地域とも軒並み数値を伸ばしている。この数値について、UNWTO の Taleb Rifai 事務局長は「予測を上回る国際観光客数の増加は、観光は今や、新興国、先進国双方の経済にとって成長著しい消費パターンとなったことを証明するものである。このことは、観光を社会経済の発展の重要な柱、つまり経済成長、輸出、雇用の創出を先導する存在として位置付けることの必要性を強調している。」と述べている。上半期の国際観光客数は通常、年間総数の 45% を占めるため、下半期は緩やかに減速しながら増加し続けると予測されており、年間の伸び率は 4% 程度になる見通しだ。

<http://media.unwto.org/en/press-release/2013-08-25/international-tourism-demand-exceeds-expectations-first-half-2013>

[http://dtxqt4w60xpw.cloudfront.net/sites/all/files/pdf/unwto\\_highlights13\\_en\\_hr\\_0.pdf](http://dtxqt4w60xpw.cloudfront.net/sites/all/files/pdf/unwto_highlights13_en_hr_0.pdf)

## Research and Journals —主な論文、特集号、新刊紹介—



### 宇宙観光

観光を非日常の体験と定義すれば、宇宙こそ究極の観光対象となる。しかし、実際の宇宙への旅行を考えると、宇宙飛行士という特別な人たちだけのものであった。ところが近年、宇宙はお金さえ払えば民間人でも行くことができる観光地になりつつある。ロシアの宇宙船を使い国際宇宙ステーション(ISS)に滞在する旅行が米国のスペース・アドベンチャーズ社によって企画・販売され、2001 年からこれまでに 7 人が ISS に滞在している。

また、現在、世界的なソプラノ歌手であるサラ・ブライトマンが宇宙旅行に向けてロシアで訓練を始めている。ただ、ISS への旅行代金は 2000 万ドルと言われており、民間人と言うもの一握りの富豪にしかその世界は開かれていない。そこで、より多くの民間人をより安価に宇宙へ運ぶための宇宙船の開発がいくつかのベンチャー企業によって進められている。その中の一つ、スケールド・コンポジット社が 2004 年に初めて民間機での高度 100km の宇宙飛行（弾道飛行）を成功させたことから、宇宙旅行ビジネスが本格的に展開されるようになった。米国のヴァージン・ギャラクティック社は先のスケールド社とともに乗客 6 人の宇宙船を製作しており、今年 4 月には最大の山場と言われていた上空でのロケットエンジンの噴射を成功させており（写真）、早ければ来年にでも民間機による宇宙旅行が始まろうとしている。すでに、約 600 人が 20 万ドルの旅行代金を支払っており、日本人 16 人も含まれている。本格的な民間宇宙旅行が始まろうとする今夏、和歌山大学観光学部の科学文化ゼミでは宇宙旅行の業者、旅行申込者へのインタビューを精力的に行っており、非常に興味深い事実が明らかになっている。これらの詳細は、後日、卒論や各種学会で発表する予定である。（執筆 尾久土正己教授）

スペース・アドベンチャーズ：<http://www.spaceadventures.com>

ヴァージン・ギャラクティック：<http://www.virgingalactic.com>

## 「The New Third Place: Massively Multiplayer Online Gaming in American Youth Culture」

Steinkuehler, C.A., *Journal of Research in Teacher Education*, 2005 pp.16-3



”Third place”とは、人には家や会社の他に第三の居場所がある、という概念である。この論文では、現在アメリカの若者の間で、オンラインゲームがサードプレイスとしての機能を果たしていると主張している。SNS やインターネットなど、これらの電子メディアによって現実社会のつながりをつくりにくくなったという議論もある傍ら、この論文のようにインターネット上のつながりが彼らにとってサードプレイスとなっているという議論もある。事実、これらの電子メディアを使えば人とつながることも容易にでき、自分の行きたい場所もつくり出すことができる。オンラインゲームをする人々は毎日のように非日常の空間へと旅をし、自らの分身であるアバターが仲間と共通の経験をしているという点で、擬似的に“観光”を経験しているともいえる。居場所づくりといわれるものが実社会ではなくインターネット上で行われることには賛否両論があるが、電子メディアの更なる発達は観光への認識を大きく変容させるかもしれない。(執筆 M1 羽場友理枝)

## Conferences, Seminars —世界各地の主な学会(CFP 情報)、セミナー—

### ●2014/1/8-10 Asia-Pacific Social Science Conference, Seoul, Korea



概要：APSSC は参加者に、幅広い学問、研究分野に関する議論の場を提供している。今大会は、学術界とビジネス界のリーダーたちが集い、研究者が直面している多様な問題について意見交換しながら新たな知見を得ることを目的に韓国ソウルにて開催される。

CFP：発表要旨及びペーパーのメ切は 2013/10/20 <http://www.apssc.org/index.asp?id=1>

### ●2014/2/6-8 ICHLST (The International Conference on Hospitality, Leisure, Sport, and Tourism) Delhi, India



概要：本学会の目的は、共同研究の場、そして研究からの知見の共有の場を提供することである。大会では、学会の目的を達成するために、観光研究のみならず、広く社会科学分野の研究者に対しても参加を募っている。

CFP：発表については既にメ切済 <http://www.soci-science.org/HLST2014/home.html>

### ●2014/3/19-22 ICBTS (The International Conference on Business Tourism and Applied Sciences) London, UK



概要：本学会開催の目的は以下の2点である。1点目は、研究者に研究内容や発見についての発表の機会を与え、さらに他の研究者と意見交換することによって、自らの知見、考察をより高めることである。2点目は、研究者同士の交流を促進することで、他者の研究に触れるとともに自らの研究を見つめなおす機会を提供することである。

CFP 発表要旨のメ切は 2013/11/30 (ペーパーのメ切は 2013/12/30) <http://www.athe.org.uk/conference/>

## Magazine —世界で発行されている観光雑誌を紹介—



### Lonely Planet Traveller

ロンリープラネットは世界シェア No.1 の観光ガイドブック。2009 年にイギリスで月刊「Lonely Planet Traveller」の出版が開始し、2010 年には、インド・アルゼンチン版が、2011 年には iPad の為のデジタル版も開始している。ロンリープラネットの読者が選んだ 2013 年版最もオススメの旅行地ランキングでは、日本は最も行きたい国の総合ランキング (トップ 20) で 5 位、安全な国 1 位など、様々な項目でランクインしている。

<http://share.system.vc/17/224271>

## オンラインアクセス可能なジャーナル (\*Limited access)

和歌山大学では、オンラインアクセス可能な海外のジャーナルを読むことが出来るのをご存知でしたか？

第一回目の WTU でご紹介した 7 種類に加え、新たに 5 種類のジャーナルが閲覧できます。是非アクセスしてみてください。

- ★ Tourism Geographies

<http://www.tandfonline.com/action/showMostReadArticles?journalCode=rtxg20#.UjERqNLIHQ>

- ★ International Journal of Tourism Research

[http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/\(ISSN\)1522-1970](http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/(ISSN)1522-1970)

- ★ Tourism & Hospitality Research

<http://thr.sagepub.com/>

- ★ Journal of Vacation Marketing

<http://jvm.sagepub.com/>

- ★ Journal of Hospitality & Tourism Research

<http://jht.sagepub.com/>

★ 2020年「東京五輪」に決定！（2013.9.8. 産経ニュース）



2020年夏季五輪の開催都市を決める国際オリンピック委員会（IOC）総会は7日（日本時間8日）ブエノスアイレスで行われ、開催都市に東京を選んだ。日本での五輪は1964年以来2度目となる開催で、72年札幌・98年長野の冬季五輪と合わせ4度目の開催となる。東京は85%の競技会場を選手村から半径8キロ以内に配置し、選手や関係者に負担が少ない「コンパクトな五輪」を訴え、招致活動では「安心、安全、確実な五輪」をアピール。6月末発表のIOC評価報告書では高度な交通網、良好な治安状態などが高く評価されていた。しかし、解決しなければならない「汚染水問題」「電力問題」また、「インフラ」の整備といった課題も見逃せない。東京が抱える課題とどう向き合っていくのか、今後の取組に注目が集まる。

<http://sankei.jp.msn.com/sports/news/130908/oth13090805200021-n1.htm>

★ 東南ア5か国内ヒザ緩和を正式決定（2013.6.11.日本経済新聞）



政府は7月11日東南アジア向けの査証（ビザ）の発給要件を今夏から緩和する方針を正式決定した。タイとマレーシアはビザ取得を免除、ベトナムとフィリピンは期限内であれば何度でも訪日できる数次ビザを発給する。政府は訪日客数を2013年に前年比2割増の1000万人にする目標を掲げており、即効性のあるビザ緩和を起爆剤に確実に達成したい考えだ。[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF11005\\_R10C13A6EB1000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF11005_R10C13A6EB1000/)

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58033>

★ 米空港での靴脱ぎ検査が不要に？免除制度を拡大（2013.09.05. CNN Travel）

ワシントン（CNN）米運輸保安庁（TSA）は5日までに、保安検査で靴や上着を脱いだりベルトを外したりしなくても済む制度の適用空港を増やすと発表した。TSAによると、靴脱ぎ検査などを免除する「プリチェック」の制度を年内に米国内60の空港で新たに導入する。既に導入済みの40空港では適用レーンの数を増やす。同制度では、乗客が機内持ち込み荷物の中に入れたノートパソコンや液体が入った小型容器などを取り出す必要もなくなるという。現時点でこの制度が利用できるのは、一部の航空会社と招待されたマイレージ利用客や、米税関国境警備局に登録して安全と認定された一部の乗客のみ。年内に一般の乗客からのプリチェック加入申請受付を開始する予定。登録料は85ドル（約8500円）で、身分証明書を提示して指紋を登録する必要がある。<http://www.cnn.co.jp/travel/35036828.html>

★ 「第1回世界サンタクロース会議 in 天草」が開催（2013年9月7-9日）



熊本県天草市において「第1回世界サンタクロース会議 in 天草」が開催された。このイベントは、アジア圏から唯一の公認サンタクロースとして活動を続けるパラダイス山元氏が、放送作家の小山薫堂氏から誘われ天草を来訪した際「約450年前に西洋文化が到来すると同時に、以来、困難な時代にあってもクリスマス(霜月祭)を欠かさず祝い続けてきた天草こそ『家族の絆』を確認しあう本来のクリスマスを考えるにふさわしい地域である」と小山氏に打診し、プロジェクトが始動。期間中、世界7か国から天草を訪れた15名の公認サンタクロースと地域住民たちが交流し、天草のまちは大いに盛り上がった。

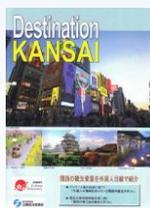
<http://www.t-island.jp/santa>

★ スペイン恒例の「トマト投げ合い」祭り、参加は日家で3割超（2013.08.29. CNN Travel）



スペイン東部バレンシア州にあるブニョール町、住民や観光客らが1時間にわたってトマトをひたすら投げ合う年恒例の祭り「ラ・トマティーナ」が29日までに始まった。参加者は約2万人。今年は大会史上初めて参加料を求めることになり、10ユーロ（約1300円）を徴収した。また、参加者の数が膨れあがり、安全対策上の懸念があるとして半減に踏み切った。このユニークな祭りの存在は海外メディアで紹介されて人気が高まり、外国人の参加も増え始めた。今年の投げ合いの参加者を国別に見ると、最多の約20%を占めたのがオーストラリア人。次いで日本人の17%、英国人11%などと続いた。地元のスペイン人は米国人と同じ7%だった。<http://www.cnn.co.jp/travel/35036555.html>

★ Destination KANSAI（ディステーション関西）」（2010年5月20日）



「近畿経済産業局は2010年5月20日に、関西在住の外国人の目線で関西の魅力的な観光スポットを紹介する冊子「Destination KANSAI（ディステーション関西）」（英語、日本語）を作成した。海外での関西へのプロモーションや、国内旅行会社などに訪日旅行者の関西への誘致に役立ててもらおう。冊子は、関西に在住する留学生など167人から得たアンケート集計結果をまとめた「外国人が興味を持っている関西の観光スポット」と、領事館等関係者に聞く「関西の魅力ある観光スポット」で構成。関西在住の外国人が行ってみたいと考えている観光スポットに加え、外国人からみた関西の観光に関する魅力や期待、意見なども紹介している。アンケート結果に基づく「行ってみたいスポット」は、ミナミ界限（大阪市）、大阪城、清水寺（京都市）がトップ3。「行ってみたいスポット」では、本宮温泉郷（和歌山県）、近江八幡水郷めぐり（滋賀県）、熊野三山と那智の滝（和歌山県）が上位となった。高野山は9位。<http://www.kansai.meti.go.jp/3-1toukou/destination/index.html>

和歌山大学 観光学部 観光教育研究センター  
 Location: 観光学部研究棟 208  
 Contact us: [tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp)  
<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/tourism-er.html>